令和８年度　第１回かめおか霧の芸術祭実行委員会 会議録

日時：令和８年７月１７日

午後３時～午後５時

場所：亀岡市役所市民ホール

【開会の挨拶】

（委員長）
議題１「令和７年度事業及び決算報告」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局から令和７年度事業及び決算報告】

（委員長）
ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

（委員）
今年は緑化フェアとアートプロジェクトを一体化した大きな取組がなされ、霧の芸術祭もその力になっていることを大変嬉しく思っています。今年度は特別に大きな予算が付いていますが、緑化フェアは今年限りです。一過性に終わらせず、整備した場所の維持や継続に向けた考え方が現時点であれば教えてください。

（事務局）
レガシーを残すことは重要だと考えております。農小屋は引き続き現地に残す予定です。公募アート作品は管理の難しさから会期後に撤去となります。会場全体はオーガニックビレッジパークということで、引き続き都市公園として管理を考えていきます。

（総合プロデューサー）
補足ですが、今年度「ハラッパー」という市民の公園管理団体を 10 名ほどで形成しました。3 万円の参加費を払ってもらい、アートの活用や公園の維持運営を学ぶチームです。これにより城跡芸術展と公園の 2 つの市民チームができます。会期後、公園をどのような形で運営していくかはまだ決まっていませんが、予算に依存せず持続的に公園を管理する仕組みを作り、将来的にはイベント企画も実行委員会と共に考えていけるのが理想です。

（委員）
サポーターが運用に関わり、意見を取り込んでいく形は発展的だと思います。城跡芸術展でもサポーターの素直な意見を取り込み、プロとアマチュアが混ざり合うハイブリッドな運用を深めていくのも良いと思います。サポーターや市民がより積極的に関われる仕組みや、作家と市民の距離を縮める取り組みを作っていただければありがたいです。

（委員長）
来年度以降の課題・ご意見として承っておきます。

（アーティスト）
ハラッパーのメンバーは城跡芸術展のボランティアと異なり、自然環境や土地の歴史に興味を持っておられ、亀岡市が 6 割、残りは他地域から熱心に通ってくれています。城跡芸術展の市民参加型化や、市役所地下 1 階アトリエの活用についても議論中です。次年度は市民が自分の作品を魅力的に見せる講座や、作家への理解や作品への目線を養っていくような講座を作りたいと思っています。様々な人が交差して学ぶ場を作りながら作家との関わりが持てるように検討しています。

（委員長）
ありがとうございました。他にございませんでしたら、議題 1 につきましてご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

【拍手】

（委員長）
ありがとうございます。拍手多数でありますので、原案通り承認されました。続きまして、議題 2「令和 8 年度事業の取り組み状況及び補正予算（案）」について事務局より説明をお願いします。

【事務局から令和 8 年度事業の取り組み状況及び補正予算（案）について】

（委員長）
ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

（委員）
ミュージアムショップについて、緑化フェアのアーティストも参加するということで、今回は規模が大きくなり売り上げも見込まれますが、予算書に組み込まれていないのはなぜでしょうか？

（事務局）
規模が未確定のため計上していませんが、昨年度と同様に一定の手数料をいただき歳入に充当する予定です。

（委員）
昨年度出品して感じたのですが、お金や作品を扱うため運営側の負担が大きいです。今回はさらに規模が拡大するため、金額も高額になる可能性があり、トラブルにならないよう専属担当者を置くなど、責任を持って運営できるよう受け皿の準備をお願いしたいです。

（事務局）
おっしゃる通りです。今回は規模が大きいため、専属者を配置してしっかりと対応するべく計画を進めております。

（顧問）
広報についてですが、インフルエンサー活用の話もありましたが、一般市民や関心がある方に対してどう広報していくのか具体的に教えてください。

（アーティスト）
アート部門に関しては、個別のアート関係者に向けてプレスリリースを発信していく予定です。

（事務局）
緑化フェア本体とも連携し、プレスリリースの記事を使って広く発信していきます。

（顧問）
せっかく良い取り組みを行っても伝わらなければ残念です。現在ホームページを見てもカレンダー等の広報が上がっていないため、早い段階で決まったところから順次情報を上げていくようお願いします。

（委員）
まだ作品ができていない段階での広報は難しいと思いますが、完成を待つのではなく、参加アーティストへのインタビューや制作の進捗状況を積極的に発信し、アーティストも巻き込んで一緒に盛り上げていく工夫をしてほしいです。

（アーティスト）
公式 Instagram で順次アーティスト紹介を行っています。また、アートスプラウトにおいては、制作現場を撮影しており、8 月 4 日頃にプロセスを伝える 1 本の動画として公開する予定です。

（委員）
アート設置物の最終的な完成日はいつですか？見る人に安心感を与えるためにも、納期や工程の目安をオープンにするのも必要では。

（アーティスト）
アートスプラウトは、8 月 31 日から搬入・設置を行い、9 月 13 日までの完成をお伝えしています。ここが期日となります。

（委員）
そうした日程や経過をオープンにすることで、見に行きたいと思っている人も期待を持って予定を立てられるようになります。

（顧問）
市民参加型のワークショップ等は、どのような方法で募集しているのでしょうか？

（アーティスト）
農小屋プロジェクトの半数ほどで市民参加を予定しており、すでに 3 組ほどワークショップを実施しています。実行委員会やアートパークプログラムの SNS や城跡芸術展のサポーターの LINE グループ（約 100 名）等で募集し、毎回 10 名ほど集まっています。

（顧問）
限定的にならず、登録者約 3 万人の「亀岡市公式 LINE」なども活用して幅広く告知し、話題性を作ってください。

（アーティスト）
はい、承知いたしました。

（委員）
緑化フェアとアートパークプロジェクトが一体化したようなこの大きな文化事業の記録を、次につなげるためにも、映像や書籍の形でアーカイブを残していただきたいです。

（委員長）
事務局と検討いたします。他に無いようでしたら、議題２につきましてご承認いただける方は拍手をお願いいいたします。

【拍手】

（委員長）
拍手多数でありますので、原案通り承認されました。予定の議題は以上ですが、各委員様から一言ずつ感想やご意見を頂戴できますでしょうか。

【委員・顧問からのご意見・ご感想】

（委員）
当初は、かめおか霧の芸術祭についていろいろ意見もありましたが、芸術に環境や農業を掛け合わせたことで少しずつ市民に理解されるようになってきました。今回、緑化フェアと掛け合わせることでさらに市民に浸透していくことを期待しています。自治会としても緑化フェアを PR し、地域で広めていきたいと思います。

（委員）
秋に向けて地域でお手伝いできることがありましたら、ぜひ協力させていただきたいと思います。

（委員）
多くの人が集まるため、熱中症や事故に対する安全対策・リスクマネジメントの担当を決め、万全の体制で臨んでください。

（委員）
緑化フェアのアート作品は、亀岡市以外の芸術家の制作もあるとのことですが、本校の美術工芸専攻の生徒も半数は口丹波以外の地域から来ています。開かれたアトリエや城跡芸術展などで大変お世話になっております。今後ともよろしくお願いいたします。

（委員）
本校ではゴミ問題やこどもファースト、地域活性化・農業などの探究活動を活発に行っています。今年は、展示会などイベントにも参加し、地域の活性化に協力したいです。

（委員）
普段触れる機会の少ないいろいろなジャンルのアートを見られる機会はなかなかないと思いますので公園を訪れるのを楽しみにしています。

（委員）
緑化フェアと併せて霧の芸術祭をしっかり PR し、地域のにぎわいと盛り上げに貢献できるよう努めてまいりたいと思います。

（委員）
コンベンションビューローは、京都サンガのホームゲームの際にエコマルシェを実施し、全国からアウェーチームの方にもご利用いただいています。緑化フェアやかめおか霧の芸術祭の取り組みが、市内だけでなく、全国から訪れる方々とつながり、次へのステップにつながるような機会になればと思います。

（委員）
かめおか霧の芸術祭の各プロジェクトも年を重ねるごとに厚みが出てきて良いと思います。緑化フェアでは農小屋や野外アートがありますが、作品を巡るテーマやコンセプトを明確にし、スタンプラリーなど回遊を楽しむ工夫があっても良いと思いました。また、広報では静止画だけでなく 30 秒程度の短尺リール動画を活用すると、魅力が直感的に伝わりやすくなります。インスタグラムや TikTok などの SNS で配信し、一目で意味が分かり、ここに行きたいと思わせるような情報発信が大事だと思います。

（顧問）
市の広報ともしっかりと連携し、様々な人の力を借りながら緑化フェアの発信の機会を増やしていってください。

（委員長）
皆様、秋の開催を楽しみにしながら、緑化フェアそしてかめおか霧の芸術祭を共に盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

【総括挨拶】

（総合プロデューサー）
本日は広報についてたくさんのご意見をありがとうございました。このことは、コンテンツが揃ってきたということであり、このチャンスにきちんと広報しないともったいないと思いますので、今後頑張っていきたいと思います。かめおか霧の芸術祭が始まり、ここまで来れたのは、アイデアとスタッフの成長、そしてそれを育ててくれた亀岡市の行政との一体感は貴重だと思います。

行政とアーティストが一体となってアイデアを形にしてきたこの文化事業のあり方は、全国的にも注目される「亀岡モデル」になりつつあります。緑化フェアで全国からアーティストが来られて亀岡の活動に期待が集まる中で、今後の課題は外部から訪れるアーティストやなどが安心して安く泊まれるような場所の整備だと思います。また、うちのスタッフにも子どもがいますが、その子どもたちは将来、亀岡を背負っていってくれることになります。そのように地域の子どもたちを育てる基盤づくりも行政と一緒に考えていきたいと思います。

これらを成功させるためにも、今後、スタッフの方でも安全安心な運営体制・組織力を強化していかなければと思います。本日はありがとうございました。